

北沢地区の課題と取り組み

課題1 外来者が多い

■課題の説明

- 下北沢駅周辺商店街は、近隣住民よりも外部から来る大勢の人でにぎわう街である。
- 下北沢駅は、鉄道2路線が交差する駅である。(地震により列車から降車させられた大勢の乗客(ピーク時推定10,000人程度)が駅から街に流出する。)
- 外国人も多く見受けられる。
- 以上の状況により、地震発生時には、土地勘がない大勢の外来者に加え、日本語の言葉や文字がわからない大勢の外国人で混乱する恐れがある。

■地区としての当面の取り組み(特別な準備・調整なしでもできる共助)

- ①町会と商店街等が協力し、拡声器や案内ボードを使用して可能な限り案内を行う。
 - ②案内する内容は、
 - 火災が発生している場合
火災から遠い方向、風向きを考慮した方向に退避するように案内する。
(火災の規模によっては必ずしも広域避難場所を案内しなくても良い。)
 - 倒壊する危険性がある建物がある場合
近づかないように案内する。
 - 火災発生も建物倒壊もない場合
避難の必要がないことを伝える。
徒歩で帰宅が可能な人は、都心部からの徒歩帰宅者の群れが来ないうちに行動する方が混乱がないので、早めに帰宅行動するように促す。
徒歩で帰宅が不可能(遠い)な人には、帰宅困難者一時滞在施設である都立松原高校に行くように(だいたいの方向)案内する。
- ※日本語がわからない外国人に対しては、日本人についていくように身振り手振りで示して伝える。可能であれば外国語ができる日本人を探して伝えてもらう。
- ※避難所は倒壊や消失のために自宅に居住できなくなった方の一時滞在施設であり、「避難する場所ではない」ことを念頭において案内を行う。(避難所になるべく行かせない。)

★各エリアの取り組み

- 平時の防災訓練、広域避難場所である「東大駒場・駒場野公園」の徹底、防犯パトロールを実施している。【東北沢自治会】

- 商店街はイベントを多く開催しているが、平時の防災訓練という考えで行なっている。【北沢2丁目協和会・一番街商店街・しもきた商店街】
- 商店街マップは、防災情報も多く載せてある。デジタルサイネージも設置してあり、平時は商店街情報だが、災害時には防災情報を発信する。【北沢2丁目協和会・一番街商店街・しもきた商店街】
- 平成23年度に防災マップを作成し、配付した。
【北沢2丁目協和会】【北沢3・4丁目西町会】
- アルバイト店員が多く情報不足であるが、広域避難場所は駒場東大駒場野公園一帯なので、ひとこと「駒場」を徹底したい。【北沢2丁目協和会・一番街商店街・しもきた商店街】
- 外国人が多い。商店街では外国人向けの冊子を作っているが、部数が少ないので増やしたい。【北沢3・4丁目西町会】
- 防犯パトロールを定期的実施している。【北沢2丁目南町会】
- 北沢2丁目協和会・一番街商店街・しもきた商店街・北沢3・4丁目西町会合同で月1回ナイトパトロールを行っている。【北沢4丁目町会】
- 各避難所に指定されている町会が訓練を合同で行う方法を検討する【北沢中央自治会】
- 隣接する渋谷区の町会と連携して情報交換を行っていくことを検討する。
【北沢中央自治会】

■ 地区としての今後の取り組みの方向性（中長期的に準備が必要な検討事項）

- ① 町会、商店街、鉄道会社、大規模商業施設等と協議し、適切な案内方法をすり合わせておく。
- ② 拡声器、ボードの配備。
- ③ 避難や帰宅の方向（状況に応じて使い分けられるように数方向分が必要）、都立松原高校の方向を示す表示物や配付物を準備しておく。外国語版も用意する。

★ 各エリアの取り組みの方向性

- 住宅街と商店街が混在する地域で、利害が反する部分がある。たとえば看板の路上占用など。折り合いが難しいが、相互に問題点がわかってくるので、理解へのテーブルを進めたい。【北沢3・4丁目西町会】
- 外国人が多い。商店街では外国人向けの冊子を作っているが、部数が少ないので増やしたい。【北沢3・4丁目西町会】
- 外国人が多いので、地図などを配付したりして情報提供を増やす。【北沢2丁目南町会】
- ルール違反の民泊や投資目的のマンション建設もあり、これからの問題と

- して町会も理事会で問題提起する。【北沢3・4丁目西町会】
- ・消火器が区域内に30箇所あるが、知られていない。マップなどで知らせることが大事。【北沢4丁目町会】
 - ・若者が多く集まるまちでもあるので、若者のアイデアも取り入れる。【北沢2丁目南会】

課題2 火災発生危険度が高い

■課題の説明

- ・下北沢をはじめとする各駅周辺商店街は、小規模で個性的な飲食店と衣類雑貨販売店が多い。
- ・ハザードマップでは、商店街は耐火構造の建築物が多いため、住宅街に比べて火災危険度が低く表示されているが、火災の発生と延焼の危険度から見ると逆である。

北沢地域の商店街は、マイコンメーターが設置されている都市ガス、転倒すると燃料や電気が遮断される暖房器具がほとんどである住宅街に比べ、熱源に炭火やカセットコンロ等を利用する飲食店も多い。その上、耐火構造ではあっても古い建築物が多く、また、改装により耐震性が低下している建物・店舗も見受けられるために、倒壊や一部損壊の危険性も高い商店街の方が火災発生の危険性は高いと考えられる。

- ・老朽化した木造住宅が密集しており、阪神・淡路大震災時と同じように地震による停電が復旧した後に発生した「通電火災」の心配がある。
- ・東京都の木密地域不燃化10年プロジェクトに基づく不燃化推進特別整備地区（「不燃化特区」）に指定されている場所が広く存在している。

■地区としての当面の取り組み（特別な準備・調整なしでもできる共助）

- ①町会と商店街等が協力し、商店街の飲食店は特に重点的に火災発生を早期に発見するように注視する。
- ②火災の発生を発見した場合は、まず店舗備え付けの消火器等を用いるとともに119番通報を試みる。
- ③消防署の出動が不可能な場合は、一般住民や外来者を退避させるとともに、速やかに町会や商店街が所有している消火器具（可搬ポンプやスタンドパイプ）等を利用して延焼防止に努める。

★各エリアの取り組み

- ・火災のリスクが高いため、初期消火が重要。風呂水をためておくなど、各家庭での備える。【北沢1丁目町会】

- ・商店街路灯に初期消火装置を配備し、火災に備えている【一番街商店街】
- ・区の感震ブレーカー購入経費の一部助成制度を利用して、通電火災を未然に防ぐよう広報・周知を行っている。(平成28年度限定)
【北沢1丁目町会・東北沢自治会・北沢2丁目協和会・北沢3・4丁目西町会・北沢4丁目町会・北沢中央自治会・北沢5丁目町会】
- ・感震ブレーカー購入経費の制度を利用できるようにして(現在区の制度は対象外)通電火災を防ぐよう広報・周知する。【北沢2丁目南町会】

■地区としての今後の取り組みの方向性(中長期的に準備が必要な検討事項)

- ①火災発生危険性が高い店舗に対しては十分な備え(消火設備・消火器等)と、訓練を日ごろから行うように促す。

★各エリアの取り組みの方向性

- ・スタンドパイプを導入し、置き場所を確保する。【北沢中央自治会・北沢5丁目町会】
- ・コンクリートカッターやジャッキ他の工具のほか、カセットボンベの発電機をを町会で常備している【北沢5丁目町会】
- ・北沢総合支所街づくり課で不燃化特区に対する補助制度等を利用して、街ぐるみで不燃化に取り組む
【東北沢自治会(一部)・北沢3・4丁目西町会・北沢4丁目町会・北沢中央自治会・北沢5丁目町会】

課題3 急傾斜地がある

★北沢1丁目町会エリアのみ

■課題の説明

- ・北沢1丁目には住宅地が崖下に位置する急傾斜地が存在する。
(崖上は東京大学先端科学技術研究センターのキャンパスである)
- ・急傾斜地では、地震により土砂崩れ等が発生して道路が寸断されるだけでなく、家屋の流出や倒壊、土砂等の下敷きになる恐れがある。

■地区としての当面の取り組み(特別な準備・調整なしでもできる共助)

- ①地震発生後速やかに急傾斜地の状況を確認し、当該区域の住民に対して速やかな退避行動を促す。
- ②すでに家屋の流出や倒壊が発生していた場合は、119番通報を試みる。
- ③消防隊の救助が見込めない場合は、各自の身の安全を確保しつつ近辺の住民に呼びかけ、当該家屋住人の安否確認や救出救助を行う。

■地区としての今後の取り組みの方向性（中長期的に準備が必要な検討事項）

- ①該当区域居住者に対し、地震発生時の行動を啓発する。
- ②近辺住民に対しては地震発生時の共助への協力を依頼する。

課題4 災害時要援護者

■課題の詳細

- ・災害時に自力での避難が困難な高齢者や障害者が多い。

■地区としての当面の取り組み（特別な準備・調整なしでもできる共助）

- ①区と災害時要援護者支援協定を締結している町会の場合は、区から提供された名簿等に基づき日ごろから見守っている対象者の安否を確認する。
（協定締結町会6町会、未締結町会2町会）
- ②区と災害時要援護者支援協定を締結していない町会の場合は、日ごろの町会活動等により把握している情報等に基づき、対象者の安否を確認する。
- ③安否確認と家屋の損壊状況や火災発生状況等により、避難支援や救出救助が必要な場合は、支援を行う。
- ④支援に際してあらかじめ決めてある担当者だけでは足りない場合は、近隣住民等に支援の手助けを呼びかける。

★各エリアの取り組みの方向性

- ・単身者や高齢者など、新聞を取っていない世帯が多いので、ポスティングすると良い。【北沢2丁目協和会】
- ・高齢者の安否確認、見守り活動を実施している。町会加入促進もするが、ふだんの挨拶が重要と考えている。【北沢2丁目協和会】
- ・地区防災訓練の時に北沢中学校の生徒が要援護者支援活動訓練に参加し、救命救急講習を受講しており、人的な面で非常に頼りになる。【共通】

■地区としての今後の取り組みの方向性（中長期的に準備が必要な検討事項）

- ①区と災害時要援護者支援協定を締結していない町会にあっては、協定の締結を検討する。
- ②町会における日ごろからの見守り活動等をさらに充実させる。
- ③要援護者の近隣住民への日ごろからの協力依頼。
- ④避難支援、救出・救助に必要な機材の準備と使用方法の訓練を行う。

★各エリアの取り組み

- まず、各人が何をすべきか、どのように自分の身を守るか具体的な案を考えて、その先に近所の安否確認などの共助につなげる。【東北沢自治会】
- 高齢者の安否確認には普段の挨拶が重要と考えている。【北沢5丁目町会】
- 玉川上水第二緑道公園で行っているラジオ体操を活用して、日頃から顔の見える関係を広げていく。【北沢5丁目町会】